

科学者委員会研究評価分科会（第24期・第2回）議事要旨

1 日 時 平成31年2月22日（金）10時00分～13時00分

2 場 所 日本学術会議 5-C(2)会議室（5階）

3 出席者

三成美保委員長、藤井良一副委員長、遠藤玉夫委員、古谷研委員、
相田美砂子委員（ビデオ出席）、高瀬堅吉委員、松中学委員、林隆之委員

4 配布資料

資料1 前回議事録
資料2 林委員報告資料
資料3 相田委員報告資料
資料4 研究評価に関する調査について

5 議題

（1）前回議事録の確認

事前確認は終了しているが、何かあれば会議中に申し出ることとされた。

（2）林委員からの報告

・林委員より「海外諸国における運営費交付金の配分」について話題提供があったのち、意見交換が行われた。

（3）相田委員からの報告

・相田委員より「広島大学における研究評価のあり方」について話題提供があったのち、意見交換が行われた。

（4）研究評価に関する調査について

・三成委員長より研究評価に関する調査について、説明が行われたのち、意見交換が行われた。

<説明概要>

分野ごとの研究評価のあり方について、分野別委員会の委員長に調査したいと考えている。今回は緊急の調査であり、本格的な調査は夏以降に考えている。

内容については現時点では素案だが、役員に林委員・竹中委員を加えたコアメンバーで検討し、メール等で案を示したい。3月半ばには調査を開始したい。

<意見交換概要>

・分野別委員会の委員長に答えてもらえるのか、心配。また、所属している組織によって、回答が変わるのではないかと。回答者が回答しづらくないよう、

また回答にあたって迷うことがないよう、趣旨説明で確実に説明する必要がある。

- ・ 現在、分野で標準的に行われている研究評価のやり方、と、本来あるべき姿、を回答してもらうことになると思うが、その2点は明確に分けて記載する必要がある。また、新しくランク付けをしようということではなく、我々の頭にあるものを目に見えるようにしよう、ということだ、ということ趣旨説明に入れる必要がある。
- ・ 何のために調査をするのか、多様な研究を促進するものである、ということも趣旨説明に書く必要がある。
- ・ 調査の結果が業績評価に使われてしまう可能性はないか。用心深くする必要がある。
- ・ 今回の調査は、我々の中で明らかにするためだけの、「予備調査」であることを明確にした方がよい。
- ・ 今回の調査結果を受けて、5月にシンポジウムを開催したいと考えているが、具体的な分野は出さずに、全体的にこういう傾向があるということを示したい。

(5) その他

- ・ 次回は4月以降。年間3回は実施したいと考えている。

以上